

# 情報科学部産学懇談会

## 平成 16 年度の活動

中野 康明  
Yasuaki Nakano

九州産業大学 情報科学部  
Faculty of Information Science, Kyushu Sangyo University  
ysnakano@gakushikai.jp, <http://www.is.kyusan-u.ac.jp/~nakano/>

### 1. あらまし

情報科学部では、産業界からの要請を教育現場になるべく早く取り入れることを目的として平成 16 年度に情報科学部産学懇談会を発足させました。この活動は別記事で紹介した情報科学部の FD 活動と表裏一体をなすもので、教育改善を産学協調の立場から補完するものと言えます。

産学懇談会の概要について報告します。

この懇談会に含まれるものではありませんが密接に関連する事業として、本学部を会場として開催された「九州半導体会社合同説明会」があります。別記事として報告するほどの量もないので、産学懇談会の記事の一部として紹介しておきます。

### 2. 産学懇談会設立の趣旨

平成 16 年度の初頭に、情報科学部は平成 14 年 4 月の発足以来 3 年目を迎えることになり、学部教員の間によいよ来年度は卒業生を送り出すことになるという感が強くなりました。

情報科学部が教育を行う上でのキーワード「社会と人間」は、卒業生を社会に送り出すために重要な概念として採用したものです。教育改善を一層進展させるためには、産業界が教育現場に何を期待しているかを把握し、産学協調を推進する必要があります。

産学協調というと、大学側から企業に出向いて産業界の要望を聴取すると考えられ勝ちですが、情報科学部では、これとともに企業の方々に学部の教育現場を視察して戴き、視察結果を踏まえてご意見を戴くことも肝要であると考えました。

特に情報科学部は設立されたばかりであり、企業の方々は情報科学部の教育内容などはあまりご存じないでしょうから、実際に見て戴くことは極めて重要です。

このような考え方から、平成 16 年 6 月に 2 回にわたって情報科学部産学懇談会を開催しました。

### 3. 産学懇談会の概要

企業の方々に視察して戴く授業としては講義よりも実験系の科目がより効果的であろうと考えました。実験科

目を選ぶと時間割により開催日が制約されます。また、企業の株主総会なども考慮する必要があります。

このような観点から、次の 2 回を設定しました。

- (1) 平成 16 年 6 月 11 日 (金) 14:00 ~
- (2) 平成 16 年 6 月 15 日 (火) 14:00 ~

案内を差し上げた企業（団体を含む）は実際に足を運んで戴く関係上、九州地区に本社または支社を置くところに限られました。そのような状況下でも、参加社（団体を含む）は

第 1 回: 12 社 16 名

第 2 回: 10 社 13 名

とかなりの盛況でした。これ以外に、参加を申し込まれ都合で欠席された会社が 1~2 社ありました。

参加者には九州地区有力企業の社長クラス、大企業九州支社の支社長クラスの方々も含まれました。大半の方が実験視察後の懇談会に参加されて忌憚のない御意見を戴いたことは特筆されます。



図 1 実験室視察風景

### 4. 懇談会で出た感想・意見・質問

実験を視察した後、教員との間で懇談を行いました。その中で出た主な感想として情報科学部に係るものとしては、

- 情報関係の大学は多いが、IT をサイエンスとして教

えるところは意外に少ないので、情報科学部の発展に期待する

- 情報科学部の教育理念には同感であり、学生がそれに応じていれば即戦力になるだろう
- 講義と演習・実験がセットになっていて、講義で習ったことがすぐ実験で確認できる方式には感心した
- 学生アシスタントの制度は良いと思う。他人に教えて初めて理解することも多い
- カリキュラムを見ると昔からあった授業が多いが、もっと現代の要請に答えるべきだ

と、どちらかと言えば評価して戴ける感想がかなりありました。

情報関連の教育一般では

- 企業の採用では技術的素養だけでなく、人間力を見ている
- スキルよりも基礎的素養が重要である。スキル = 知識 × 経験と言える
- プロジェクト管理はリーダーだけの問題ではなく全員が関与するので、教育を考えないといけない
- コミュニケーション能力不足は頭の痛い問題だが、大学だけの責任ではない
- SE では、事務系の頭の中にある仕様を抽出する能力が問題である

などの御意見をお持ちの参加者がおられました。

また、情報科学部に対する質問としては

- 情報コンプライアンスの授業はどうしているか
- 学生が一人でやる環境は良いが、企業で重要なグループ作業はどう教えているか
- インターンシップで京浜地区まで来る学生がいるか

その他、多数が出されました。

情報科学部としては、これらの御感想や御意見を今後の教育改善にどう取り込むか検討しています。

## 5. 新聞報道

懇談会の模様は西日本新聞 (平成 16 年 6 月 12 日) および毎日新聞 (平成 16 年 6 月 28 日) で、実験の視察風景とともに報道されました。

## 6. 就職との関連

産学懇談会の一つの目的は、これから社会に出る卒業生のために、就職先企業に情報科学部の実態をお見せすることもありました。

九州地方に多い LSI 関連企業にも案内を送りましたが、「情報科学部」という名前だけで関係ないと判断されたのかどうか、LSI 関連企業の参加はごく少なく大半はソフトウェア企業でした。

参加企業がソフトウェア企業に偏っていたという状況はありますが、平成 17 年度卒業生の内定先企業途中経

過 (平成 17 年 6 月中旬) を見ると、産学懇談会参加企業 (グループ企業を含む) が 6 社 (内定者計 9 名) 含まれています。産学懇談会との因果関係は明確ではありませんが、多少とも役立ったとすれば企画を行った者としては努力し甲斐があったと言えます。

## 7. 九州半導体会社合同説明会

産学懇談会への LSI 関連企業の参加が少ない問題をどう解決するか考えていたところ、産学懇談会にも参加された福岡県産業・科学技術振興財団 (ふくおか IST) の関係者から、九州半導体関連企業の会社説明会に学生の参加が少ないという話を伺いました。

企業の側では学生に会社説明をしたい、学生の側ではいろいろな会社の情報を知りたい、という要求があるのに、その二つの要求がマッチしていないというのは誠にもったいない話です。会社説明会の開催場所や日時が学生に都合が良くないことも一因ではないかと想像されました。

そこで、ふくおか IST から「会社合同説明会を情報科学部で開催すれば、本学の学生が参加しやすいのではないか」という発想が出されました。

ふくおか IST は公的な機関ですので、参加者を情報科学部の学生に限定することはできません。そこで、社団法人日本半導体ベンチャー協会九州 JASVA 主催、財団法人福岡県産業・科学技術振興財団共催、という形で、会場だけをお貸しすることにしました。

その結果、「九州半導体会社合同説明会」が開催され、九州地方の全大学の学生に参加を呼びかけました。

説明会に参加された企業は九州 JASVA に加盟している 10 社で、数は多くはありませんが九州にある企業ですから就職先としては有望です。これらの企業を一つづつ回ることを考えれば半月はかかりますから、1 日でまとめて説明が聞けるのは便利ではなかったかと思えます。

参加企業には情報科学部玄関ロビーにブースを設けて戴き、採用担当者に待機して戴きました。

参加した学生は合計 114 名で、九州産業大学 106 名、他大学 8 名 (4 大学) でした。ただし、受付で登録した学生のみで実際はもっと多かったかも知れません。また学部別では記録していません。

説明風景を見た感じでは、他大学や他学部からの参加者は狙いを付けた企業のブースをいち早く占領して食いついており、ハングリーな印象を受けました。情報科学部の学生は、就職活動としてはごく初期の催しだったので気おくれしていたのか、人気企業に立ち遅れたり空いているブースがあるのに話を聞かなかつたりで、少しおっとりした姿だったのは残念でした。

合同説明会に先立って、株式会社ジェイエムネット代表取締役の植木一夫氏による元気一杯の講演があり、聴衆に強い印象を与えました。